

# “氷都”の未来 考える

## 八戸自由大学市民フォーラム



“氷都八戸”の未来について考えた市民フォーラム＝16日、八戸市

民間ベースによる市民講座「八戸自由大学」による市民フォーラム「氷都八戸」

の未来について考えよう」が16日、八戸市の吉田産業本社で開かれた。参加した

市民約30人が講演やパネルディスカッションを通じ、今秋に供用開始予定の市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」などについて理解を深めた。

基調講演では、市屋内スケート場建設推進室の河原木実室長が、屋内スケート場の概要や建設工事の進捗状況などを紹介。2月末現在で工事の進捗率は8割を超えているとし、今後も大会やイベントを積極的に誘致していく考えを強調した。

パネルディスカッションには、河原木室長のほか、

青森県スケート連盟の田名部和彦会長や八戸学院大ス皮ードスケート部の船場亜希監督、八戸地域社会研究会の高橋俊行会長が登壇した。

このうち高橋会長は、2011年に八戸で開催された冬季国体では、直接・間接効果合わせて5億5千万円の経済効果があったとの試算を提示。屋内スケート場を会場に、20年に冬季国体が行われるのを踏まえ、観光分野などと合わせ活用されれば、より効果が出る可能性を示した。

(上野貴裕)